

第186回総会の延期および新たな日程の設定について

会員の皆様には、日頃より日本学術会議の活動に積極的に参画いただき、厚く御礼申し上げます。

第186回総会の延期につき、すでに今月上旬に事務局より会員の方々にご連絡申し上げたところですが、会長としてあらためて延期を判断するにいたる経緯と現在の状況、開催日の日程等についてご説明いたします。

ご承知の通り、学術会議の在り方の見直しについて、政府においてこの夏までに方針を出すべく検討が進められてまいりました。その結果は8月の臨時総会までに公表されるものと考えられたことから、当初の予定では臨時総会において本件の議論を行うことを考えておりました。結果的にそれは叶いませんでしたが、臨時総会でご挨拶いただいた当時の小林科学技術政策担当大臣からは、総会には間に合わなかったものの、「最終調整を行うところまでまいりました」とのお言葉もありました。それゆえ、その後早期に公表されることも想定して、各部の夏季部会において政府方針について担当官からの説明を聴してご議論いただき、それを踏まえて10月総会の場で学術会議としての態度を決定することを考えておりました。実際には、各部会までに公表はなされませんでした。

他方、8月の内閣改造により学術会議の担当となった山際大志郎大臣を9月初旬にお訪ねした際に、大臣からは政府と学術会議のコミュニケーションが不可欠であること、政府の方針について細部の確認等を進めており、準備が整ったら公表して、学術会議にも速やかに説明したいと考えていることをお聞きしておりました。そうした大臣とのやりとりも踏まえ、その後も事務局を通じるなど、あらゆる機会を捉えては政府方針の早期の公表を求め、また説明の機会を設けるようお願いしてまいりました。直近では10月21日に、このお願いの趣旨を記した文書を山際大臣に宛てて送付したところです。以上が今日までの経緯です。

第186回総会は、会員任命問題に加えて、政府方針に対する日本学術会議の考え方を明示する大切な機会です。ところが、いま申し上げたような状況が続いて、その役割を果たすことが困難になることが予想されたことから、9月28日に行われた幹事会において、総会日程（10月24日～26日）の延期の判断が会長に一任され、これを受け、今月上旬、当初予定の期日を延期することが適当といたしました。その際、総会日程延期決定後早くに政府方針が示された場合には、当初予定されていた総会日程にあわせて会員の先生方への説明会を実施することも想定し、事務局に対し準備を行うとともに、内閣府の担当官に対して説明会への出席をお願いするように指示しておりました。しかし、政府方針の公表がさらに遅れているために、その説明会も実施できませんでした。

学術会議の今後の在り方についての私たちの基本的な考え方は、昨年4月の総会で決定した「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」や、本年1月の総合科学技術・イノベーション会議の民間有識者議員による政策討議の取りまとめを受けた会長談話等で明らかにしてまいりました。公表されていないもとで政府方針がどのようなものかは推測したり予断したりできませんが、人類普遍の価値としての学術に求められる役割を大前提に、あるべき日本学術会議の形として私たちがこれまで示してきた考え方が尊重されることを強く願うとともに、政府方針の内容の如何によらず、そうした私たちの考え方に照らして内容を慎重に吟味し、広く国民のみなさんにお伝えする責務があると考えます。慎重な検討を踏まえて総会での審議ができるようにするために、引き続き、山際大臣と直接お目にかかってお願いすることも含めて、一刻も早く政府方針が公表されるように関係者に強く働きかけていく所存です。

については、それまでに同方針が公表されることを前提として、次回総会の日程を12月8日及び21日の2日間として設定し、あわせて公表後は速やかにオンラインによる説明会などを開催して、会員の皆さんに総会での議論に向けた情報の提供をできるよう準備を進めます。会員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和4年10月24日

日本学術会議会長 梶田隆章